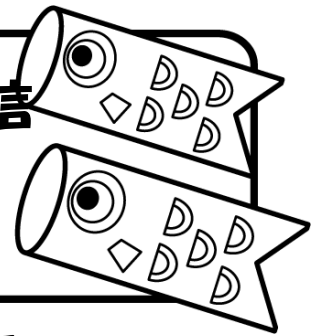


青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和6年度 第222号 5月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。



令和6年度 青木村保育園の保育目標

園長 成沢 亮子

青木村保育園長の成沢亮子と申します。本年度も引き続きよろしくお願いたします。

令和6年度の園児数は、116名（年長児23名、年中児32名、年少児29名、未満児32名）からのスタートとなっています。このうち27名のお子さんが新たに入園し、未満児における年度の途中入所児は9名を予定しています。依然として未満児による入所が増えている中ではありますが、夫婦共働き世代を支える青木村保育園として期待に沿えるよう引き続き保育環境を整えていきたいと思ひます。



さて、青木村保育園の大きな特色は地域に根ざした青木村独自の保育に取り組んでいることです。コロナウイルス感染症が5類へ移行したことから昨年度は本来あるべき青木村保育園の姿を取り戻して参りました。昨年11月に行われた「子育てフォーラム2023」で掲示させていただいた小中の先生方の保育研修では保育園のプール遊びと一緒に体験していただきました。数年ぶりに地域の方のお声かけでサッカー教室も開いていただきました。この他にもリンゴ狩り、オオムラサキの観察など数々のお声かけをいただき、子どもたちはたくさんの経験をさせていただきました。青木村の地域の皆様に見守られ子どもたちの成長が育まれる事への感謝の気持ちを忘れず、本年度も子どもたちの笑顔と共に歩んで参りたいと思ひますので、引き続きお力添えをお願いいたします。



青木村保育園の園目標「笑顔あふれる保育園～遊びに挑戦する子どもたち～」

- 1、 外遊びを中心にした遊び込みにより、五感をフルに使って自分で考える力をつける（～意欲～）
- 2、 自然豊かな青木村の地域資源をフルに活用し、信州型自然保育への取り組みを行なう（～やり抜く力～）
- 3、 地域の皆様、ご家庭、保育者、すべての人とのつながりを持つ中で子どもたちと向き合う関りを大切にする（～他者への思いやり～）
- 4、 支援体制を整え一人ひとりの成長発達を見守る（～自己肯定感～）
- 5、 保小中一貫教育を通して交流を行いスムーズな就学移行を目指す（～保小の連携～）

上記は、保小中一貫教育として掲げている「教育委員会の重点」を基盤に設定しています。小学校、中学校との連携を大切にしながら切れ目のない移行を目指しています。

また、昨年度5年ごと更新となる信州やまほいくの更新を行いました。青木村の地域資源を活用しこ

れからもあおきっ子のパワフルな保育活動を躍進して参りたいと思います。こちらの活動はホームページ「信州やまほいく」を検索いただくとご覧いただけます。随時更新されるあおきっ子の四季折々のかわいい姿をご覧ください。



さて、3月の年度末のことです。冬越えをして姿を変えたキアゲハを子どもたちと空へ放しました。大空へ巣立つキアゲハを見上げ、新しい年度を迎える気持ちが強くなりました。新しい年度が子どもたちにとって実り多い年となります様、職員一同精進して参りたいと思います。

本年度も地域の皆様に見守られあおきっ子の子どもたちが笑顔いっぱいにご過ごせます様、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



令和6年度 青木小学校学校運営の重点

校長 御手洗 博一

今年度より青木小学校の校長として着任いたしました御手洗博一（みたらいひろいち）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



本年度は、29名の新1年生を迎え、全校177名でスタートいたしました。学校教育目標『あかるい子 かしい子 たくましい子』の具現に向け、177名の全校児童一人一人にとって居心地のよい学校、一人一人の強みと一人一人がもつ“わたしならでは”が際立ち、全校がつながり、多様な他者との出会いが生まれる学校づくりを、全ての職員が一丸となり目指してまいります。もちろん、多様な他者には地域の皆様も含まれます。地域の皆様のお力添え、よろしくお願いいたします。

以下、学校教育目標ならびに教職員の心構えについて述べさせていただきます。

（1）学校教育目標

① あかるい子

あかるさとは、自らの明るさを自らに照らす明るさではなく、自らの明るさを相手に照らす明るさ、つまり、他者へと向かう明るさです。他者へと向かうには、他者を感じられる心がかかせません。ひとりよがりではなく、相手の喜びはもちろん、悲しみも思い悩みも自分のことのように感じられる心です。そういった心の持ち主となって、自ら他者とかわる（あいさつや声がけ）一人一人になってほしいと思います。

おはようございます!!

② かしい子

かしさとは、単に多くの知識をもっているということではなく、自ら問いを見だし、学びを通して獲得してきた力を自在に活用し、仲間と協働しながら“わたしならでは”の“わたしたちならでは”の解を導き出すことができることです。「なぜ」「どうして」だけではなく、「知りたい」という知的好奇心も大事にしながら、自らの考えを自らの言葉で表出し、仲間と共に自分の考えを深めることができる一人一人になってほしいと思います。



③ たくましい子

たくましさとは、継続してやり抜き、強い意志と身体を持ち、失敗を恐れず、他者につながり、夢中になって元気に遊ぶことです。園での遊びを小学校でも継続させ、遊びに限らず何かに熱中し

探究することから学びが生まれ、教わる学びだけでなく、内から沸き立つ学びを充実させ、小学校での学びが中学へとつながる学びを充実させていきます。

(2) 教職員の心構え

子どもと共に在る者として、以下のことを大切にしながら、地域に根ざした教育を進めて参ります。

- ① 教師主導の授業から、子ども主体の授業づくりに徹する。
- ② 地域に学び、地域のもの・ひと・ことに触れながら、地域まるごとをフィールドにする学びの推進。
- ③ 教育公務員としての自覚を持ち、地域に信頼される学校のために、同僚性を発揮し、非違行為を根絶する。



「地域の子は地域で育てる」と言われます。地域の中には学校も含まれています。先日、温泉の帰りかけ、児童の祖父母様に偶然お目にかかる機会がありました。その方から「青木の子はいい子だよ」と教えていただきました。一人一人の強み、個性がより際立ち、子どもたちと保護者、職員が自校を愛し、地域の皆様から愛される、そんな学校を目指して参ります。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



令和6年度 青木中学校教育活動の重点

校長 箕田 大輔

今年度も引き続き青木中学校の校長としてお世話になる箕田大輔(みのだだいすけ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は、26名の新生を迎え、全校生徒85名のスタートとなりました。

今年度も昨年から引き続き、全ての学年で複数担任制を実施します。生徒の多様性を受け入れるために、多くの職員が目線で生徒をみることができるよう、より一層強固なチーム体制で生徒を支援してまいります。

昨年度ようやく落ち着きを見せてきた新型コロナウイルス感染症ですが、コロナ後の新たな社会に向けて、子どもたちの成長にとって最適な学びや学校行事、生徒会活動を今年度も探っていきたいと考えています。

一方で、保護者の方や地域の皆様に支えられている本校の特徴を生かして、各学年で故郷青木村の方々を講師に招いて実施するアイリスセミナーを「総合的な学習の時間」において位置づけたいと考えております。また、伝統芸能や義民太鼓については、生徒が主体的に取り組むようにより一層工夫して進め、こまゆみ祭で保護者の方や地域の皆様の前で発表させていただきたいと考えていますので、どうぞご支援をお願いいたします。

以下、今年度の教育活動の重点を中心に述べさせていただきます。

(1) 本校では大切にしたい5つの姿があります

学校教育目標「強い意志・思いやり・郷土愛」を体現する生徒の姿をイメージして、本校では授業や学校行事などすべての活動で右の5つの姿を目指しています。一つ一つに心を込めて取り組み、日々の生活の中で当たり前になってきたときに、それぞれがつながり、大きな力となっていくと考えています。職員

5つの実現したい姿

- ① 学び合い
- ② 伝えよう、心の挨拶
- ③ 心を磨く清掃
- ④ 心に響く歌声
- ⑤ 心を耕す読書



も、生徒の「やってみたい!」「なぜ」「何?」「どうなっているの?」という素朴な問いに寄り添い、支援しながら、生徒が自分の可能性を発見できる学校であり続けることを目指します。

(2) 主体的な生徒の育成を目指します

今年度の重点として、「自分なりの最適解を探究する力の育成」を掲げて、全職員で取り組んでいきます。

そのために、令和6年度に青木中教育で取り組みたいスローガンを立てました。それは「自立への道を切り拓く学び場」です。世界で争いがおき、未来の予測が難しい中であるからこそ、学校では、自分で考え、自分で判断、自分で決定、自分で行動する力を育成することが必要だと考えています。生徒の自立を支援し続けていくために、大切に考えていることは次の三つです。

- ・未知への好奇心を燃やそう・・・豊かな発想をもって探究しよう
- ・自分の強みを発揮し自分を磨こう・・・自ら考え、判断し、行動しよう
- ・他者を尊重しよう・・・他者との違いを理解し、他者を尊重しよう



生徒が見つけた問いを徹底的に探究できるよう、身の回りにあるどんなことにも興味をもち好奇心の根を張り巡らせてほしいと願っています。そのためには、生徒が何度でも「トライ&エラー」を繰り返して、アップデートしながら前に進んでいける教育環境が必要だと考えています。このように、生徒が様々なことにチャレンジしていく中で、自分の可能性に気づき、自らの強みを存分に発揮できるような学びの場が生まれるような学校を目指します。

また、人権教育の充実を図り、他者との違いを受け入れ、意見の相違が起きた際にも、他者を尊重しながら折り合いをつけ、対話によって解決する機会を大切にする人間関係づくりを学校教育の基盤にして、一人一人の子どもを包み込むインクルーシブ教育を目指します。

さらに、GIGAスクール構想による一人一台タブレットは、自分のペースで自律的に学びを進めるために、授業での活用はもちろんのこと、自分で問いを見つけ、情報収集し、整理分析してまとめて発表するなどの探究的な学習の際には大いに活躍するものと考えています。さらに、昨年度までに学習効果の高かったデジタル学習教材も活用しながら個に応じた学びを目指して取り組みます。

(3) 非違行為根絶からマイナスへ

「非違行為ゼロ」は当然、一歩進んで、青木中学校では、非違行為が起きるはずがないという信頼感を地域や保護者の皆様にもっていただけるように、全職員がチームとなって共に語り、共に活動するなどして取り組んで参ります。

職員一同、生徒の皆様の成長と共にありたいと切に願っています。生徒の皆さんにとって必要なことを見極めながら、柔軟な学校運営に努めてまいります。ご心配なことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



今年も新年度が始まり、気持ちも新たにあおきっ子たちをみんなで見守り、学校を応援していきましょう。

今月号と一緒に「2024年度青木村の教育」「あおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。

